



グローバルアジェンダ21の実現は
わかちあいプロジェクトのミッションです

フェアトレードは世界の豊かさを分かちあい共生する経済のしくみです

わかちあい プロジェクト NEWS No. 28

2012年8月 メラ難民キャンプでの古着支給の様子



2012 September

20年後の無謀な決断

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表
聖パウロ教会牧師

1992年8月、教会の全国総会でスリランカのバスケット入り紅茶を販売したのが、わかちあいプロジェクトの最初の販売活動でした。あれから丁度20年がたちました。

長年にわたりお支えくださり感謝に堪えません。
ありがとうございます。

ある時期は専従のスタッフも数名加わり、さまざまに活動した時期もありましたが、ここ数年は、私がおっばら一人でフェアトレード商品の紹介を行っていました。

定年が数年後に迫り、わかちあいプロジェクトの活動を終了させるべきか、継続できるように頑張るべきか迷いました。

世界の貧困問題に、市民レベルで取り組む具体的な方法がフェアトレードです。1992年にドイツを訪問したことが切っ掛けでフェアトレード・ラベル・ジャパンを設立することになりました。しかし、欧米とは比べようがないほど、日本ではフェアトレードは普及していません。国内の経済状況

も厳しく、企業も個人も内向きになっています。発展途上国の生産者を支えることへの意識も関心も育っていきません。

しかし、同じ地球に生きる私たちの共通な課題が、地球温暖化などの環境問題と南北の経済格差による貧困問題です。世界の紛争の根底には、経済問題、貧困問題が隠されています。日本でもフェアトレードラベルに取り組む企業は増えて来ていますが、コーヒーが中心で多くのフェアトレード製品が扱われていません。そのような中で、フェアトレードラベルに特化した団体は日本にはありません。そこに私たちに役割と使命があります。

この不況で、ものが売れない時期に無謀な決断ですが、働きを継続したいと思い新しくスタッフを募集いたしました。3名の方が加わってくださいました。

今後いろいろと、皆様をお願いすることになりますが、よろしく願いいたします。

古着とフェアトレードでアフリカ支援

鷺沼教会古着プロジェクト

石川清子

私たち、鷺沼教会古着プロジェクトは、15年ほど前に犬養道子さんの「人間の大地」で感化された数人で、アフリカを支援する目的で始まりました。教会バザーの後で処分されてしまう残った衣類の中にも、まだ売れるものが沢山あるのを目をつけ、それをもらいうけ、教会内で販売しながら、衣類を直接活用していただけるルートをお持ちの団体にお送りしようということになりました。

冬から初夏までの半年の間に、販売をしながら荷造りをします。季節に応じて、少しづつ内容を変えていくと、案外皆さんが面白がって買って下さいます。

一枚200円から、高級ブランドスーツでも1000円までですから、合えばとてもお得なのです。



古着プロジェクトの皆さん

最初は、荷造りしながら販売することが活動内容でしたが、本来の支援というものは、物を送るだけではないはず…という気付きもあり、売り上げたお金を遊ばせないためにも、フェアトレードの製品を仕入れることにいたしました。

毎週日曜日のミサ後にテーブルを出すだけなので、なかなか沢山売り上げることはできないのですが、フェアトレードというものを知っていただくためにも、

細く長く続ける気持ちで仕入れさせていただきます。

衣類とフェアトレード製品の売り上げから得た貴重な資金は、最初の目的である、アフリカ諸国で活動なさっている方々のところに、わずかですが資金援助としてお送りしています。

現在のメンバーは10人弱ですが、過不足ない人数で、毎週気持ち良く仕事をしております。

毎年、6月の「わかちあい」の古着支援への発送が終わると、総会を開いて援助金を決め、秋の教会バザーまでお休みです。

教会の地下ホールは、ちょっとすっきりして、暑い夏の間は涼しげになります。教会バザーのためには、私たち「古着プロジェクト」の衣類仕分けのノウハウや道具を提供し、その売上は、バザーの中でかなりのウェイトを占めています。これからも、教会バザーとタイアップしながら、「わかちあい」の衣類支援ルートとフェアトレード製品を活用させていただきながら、私たちの活動を続けて参りたいと思います。

フェアトレードオーガニックコットンの可能性 インド エコバッグ製造工場訪問

和崎亜由美 わかちあいプロジェクトスタッフ

ここ数年でエコに対する関心が高まり、生活の中の様々なシーンで環境問題が考えることが増えています。日本でも数年前に話題になった、某ブランドの環境問題のメッセージのついたオーガニックコットンのバッグを皮切りに、今ではエコバッグも多様化し市場に蔓延するまでになりました。

これほどたくさんのエコバッグがある中で、フェアトレードコットンを使ったバッグをヨーロッパ諸国に比べ日本では殆ど見かけません。おそらくヨーロッパ諸国では日本のエコとは少し考え方が違い、エシカル（倫理的＝環境保全や社会貢献）な考え方が重視されていることが関係しているのかもしれませんが。フェアトレードコットンバッグを選択することで環境問題に加え、発展途上国の生産者や労働者



クオリティーの高いフェアトレードオーガニックコットンを使用したエコバッグ



インドの Kolkata 地方にある縫製工場

の生活を改善し、貧困問題の解決につながっていくことが大切だと考えるのです。

フェアトレードオーガニックコットンの

日本での可能性を探るべく、インドの Kolkata 地方にある会社を訪問しました。主にバッグの生産・卸販売会社で、工場はインドとスリランカにあり、あわせて約600人の従業員が働いていました。エコ商品に関しては主にヨーロッパの大手スーパーのフェアトレードバッグを生産しており、ショールームに飾られたバッグのデザイン力とそのクオリティーの高さは日本の市場でも十分通用するものでした。製造工程でもソーラーパネルなどの再生可能エネルギーの使用や、浄水プラントできれいな水に戻してから排水しているなど、エコフレンドリーな取り組みを随所に見ることができ、非常に優秀な会社という印象を受けました。

身近なところからできる国際協力としてフェアトレードバッグが日本でもヨーロッパのように広がり、世界の環境問題だけでなく貧困問題にも目を向けるきっかけとなれればと思います。わかちあいプロジェクトとしては11月のオーガニックのイベント出展をはじめ、これからの日本でのフェアトレードオーガニックコットンの普及を前向きに進めていく予定です。

タイ・ミャンマー 難民キャンプ訪問

竹内智央 わかちあいプロジェクトスタッフ



ミャンマーは、1989年までビルマと呼ばれていました。1948年以降、政府軍とカレン族など少数民族との間で紛争が起きていたほか人権侵害もあり、タイへは1984年よりミャンマー難民が流入しています。現在、タイ政府内務省による監視のもと、山間部の9つの難民キャンプで約14万人が生活しています。

1993年より、わかちあいプロジェクトは毎年6月に日本の皆様よりご支援いただいた古着を必要とされる国々へ送ってまいりましたが、タイのミャンマー難民キャンプへの古着支援は2007年に開始致しました。

2012年は過去最高の11,534箱もの古着をご支援頂きまして、7月下旬にはタイの首都バンコクに到着。この時期に合わせてメラ難民キャンプとウンピウム難民キャンプ（地図参照）への出張を行いました。（メラ難民キャンプの難民人口は約46,000人、ウンピウム難民キャンプの難民人口は約17,000人=2012年6月現在）

残念ながらバンコクに到着した古着は量が多いこともあり、通常以上のプロセスを経て難民キャンプに届けられることとなりました。ミャンマー難民への古着の配給の場面には立ち会うことが出来ませんでしたが、かわりに、キャンプで暮らす人々と時間をかけて触れ合い、子供たちの夢や希望、人々の古着のニーズ等について話を聞くことができました。

難民キャンプはタイ政府の監視のほか様々な国・機関の支援を得て、予想以上に秩序立ち、且つ整然とし、民主的な行政が存在し、人々も活発に社会活動に参加しキャンプ内の平和維持のため各々が尽力していました。難民キャンプ内の教育施設を

メラ難民キャンプの女性グループと一緒に。左端が筆者



見学しましたが、特に保育施設においては保育者が「遊び」を多く取り入れる比較的自由的な保育を行っていました。それまで見てきた開発途上国の保育現場とは異なり、欧米をはじめ、外部からのソフト面の支援が入っている様子が見て取れました。高等学校では3年生のクラスを見学し、その中の数人の学生たちと話をしました。みなそれぞれ未来に夢や希望を持ち、素敵な笑顔を見せてくれました。教師や医者になり、「難民たちを助けたい」と語る10代の高校生達。難民キャンプで生まれたため、「祖国」ミャンマーを知りません。

ウンピウム難民キャンプ内でお宅訪問をさせて頂いた1件の家。白い薄手のダウンジャケットを着た年配の女性が笑顔で迎えてくれました。タイで生活をして、「家の中でダウンジャケット」と聞いて驚く方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ウンピウム難民キャンプは標高およそ900メートルに位置し、気温は10度台に下がることも少なくありません。私たちが訪れたこの



ダウンジャケットを着る女性
(ウンピウム難民キャンプ)

日も肌寒く、雨季ということもあり風雨が吹き荒れていました。この女性は数年前の古着の配給でこのダウンジャケットを受け取り、それ以来愛用しているとのことでした。タグを見てみると、「日本製」と書かれています。日本の皆様のご支援がこうして現地で喜ばれているのを目の当たりにできることは、橋渡しをする者としてはこの上なく幸せなことです。

老若男女を問わず小柄な方が多いミャンマーの方々。この女性が来ていたジャケットもサイズが150センチ、子供用でした。大きすぎるなど、サイズが合わない配給であった場合は、別の人と古着を交換したり、枕カバーにするなど、「着る」以外の用途で使えるよう工夫したりするとのことでした。キャンプ内を見て感じたことじたことは、少なくともウンピウム難民キャンプでは防寒着（ジャンパー、ジャケット、パーカー等）が喜ばれるということ。また、メラ難民キャンプにも言えることですが、趣味やコミュニティー活動の一環でスポーツをされる方も多いため、動きやすい服が重宝されるようでした。

メディアで報じられている通り、近年、ミャンマーは変化を遂げています。難民キャンプの人々が祖国ミャンマーの土を踏む日はそう遠くないにせよ、まだその日までは数年かかるとのことでした。わかちあいプロジェクトはニーズがある限り、タイ・ミャンマー難民キャンプへの支援を続けてまいります。今後とも皆さまの温かいお力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。

古着支援プロジェクト



●第21回 2013年度 古着支援要項

2013年も以下の要項に従って古着を集めます。ご協力、よろしくお願ひいたします。送り先と受け付け期間を間違えないようお願いいたします。衣料品以外のは対象外ですので御了解ください。

- 支援先(予定): タイにあるミャンマー難民キャンプ
- 古着の種類: とくに5才以下の幼児の衣類が必要です。子供と大人の衣類(夏冬ものすべて)ズボン、Tシャツ、スカート、ワイシャツ、ジーパン、背広、トレーナー、ジャージ、カーデガン、セーター、コートなどタオル、シーツも可
- 古着の状態: 洗濯に出したもの、あるいは自分で洗濯してアイロンをかけたものにしてください。
- 古着の個数: ダンボール箱、10,000個(40フィートコンテナ10台)

◎送り先: **140-0003 東京都品川区八潮 2-9 大井物流センター**
ジャパンエクスプレス内 わかちあいプロジェクト Tel. 03-3790-9672
(現地への持ち込み可、宅急便業者の選択は自由です)

◎受付期間: **2013年6月3日(金)～6月13日(木)**
(この期間に到着するようにお送りください)

◎ダンボール箱の大きさ: 引越し用段ボール箱最大の大きさまで(縦・横・高さの合計が1.5mまで)

◎送料募金: **ダンボール1箱あたり、1500円**
(古着の寄付だけは受け付けていません。送料カンパを条件としています。また荷物と一緒にカンパを送られますと、そのまま現地まで送られてしまいます。ご面倒ですが郵便振替でご送金ください)

◎郵便振替口座: わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258

◎カード決済: 可能です <http://www.wakachiai.com/>

◎現地受入団体: **TBBC ThailandBurmaBorderConsortium**

2013年の募金目的と目標額

- 難民、国内避難民ほか支援 660万円
古着などのコンテナ費用
- ミャンマー・スーダン教育支援 120万円
- カクマ難民キャンプなど 120万円
- 東日本大震災支援 100万円

募金目標額 1000万円

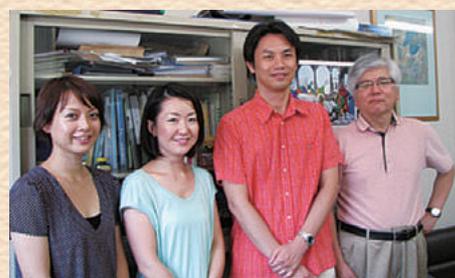
募金の送金先

郵便振替口座
わかちあいプロジェクト募金
00130-7-762258

facebook

facebookを
はじめました

www.facebook.com/wakachiai



わかちあいプロジェクトスタッフ
左から、竹内、和崎、藤本、松木

これからも わかちあいプロジェクト

藤本充朗

この7月よりわかちあいプロジェクトの働きに携わっています。1992年に始まり20年にわたり、多くの方の献身、善意によって成り立ってきたのだと日々、身をもって感じています。

わかちあいプロジェクトの20年の歴史はまさに多くのものを生み出し、残してきました。それは現地に届いた支援物資、それに育まれた命や、それらを支えた多くの善意とつながりです。またわかちあいプロジェクトから多くの人々が学び、巣立っていったと聞いています。そのような場がこれからも続いていくこ

と。それが私の望みです。

その20年の間に、世界も日本も変わってきたと思います。私の小さいころ日本はまだ高度成長期でした。今の社会は、価値観の変化や過大な競争により、社会に、人心に余裕がなくなっているのではないかと感じます。経済のグローバル化は進み続け、世界隅々まで、人、物、金の往来は加速しています。しかし、何かに追われているような人の心はますます自分中心、自らの足元、もしくは手のひらのスマートフォンの、もしかすると一方的で恣意的な情報ばかり見ているかもしれないと感じることがあります。もし当たっているなら、さらに人々を脆弱にしているのではないのでしょうか。

そのような中、わかちあいプロジェク

トがフェアトレードを通じて、商品の背後にある世界の隣人に思いを馳せるきっかけを与え、そこから自らの社会に目を転じ、視野を広げていく手助けができたらと願います。さらにわかちあいという人の本質的価値を、この社会において実践し、さまざまな人が集まり、学び、思いを実現していく場を提供していきたいと願っています。これらは今後の社会にますます必要とされるだろうと確信をしています。

国の内外を問わず、善意という手当てが必要となるところは増えていくのではないのでしょうか？わかちあいプロジェクトがこれからもその担い手として役割を果たせるよう、皆様の引き続きのご支援を心からお願いする次第です。

わかちあいプロジェクトNEWS 28
2012 September (年1回発行)

編集・発行 / 松木 傑

デザイン / Design Convivia



わかちあいプロジェクト

130-0022 東京都墨田区江東橋 5-3-1

電話: 03-3634-7809

FAX: 03-3634-7808

郵便振替口座: わかちあいプロジェクト募金
わかちあいプロジェクト

00130-7-762258 (募金用)
00180-6-758331 (代金支払用)